

令和5年度 仲西こども園 自己評価結果（設問別） 令和6年1月5日～10日実施

自己評価の目的

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づいて自己評価を行い、教育及び保育の質の向上に努めていくことを目的とする。

〈評価方法〉

普段の保育を振り返りながら、次の各項目について保育教諭自身ができているとかを4段階で自己評価する。

【 4できている 3ほぼできている 2あまりできていない 1ほとんどできていない】

1 保育・教育の理念

今回 前回 向上率

	今回	前回	向上率	
1 園の保育・教育理念、目標を理解している。	3.3	3.1	up	○園の保育・教育理念・目標のもとに指導計画し、達成できるよう実践しているという結果である。 ○保育教諭自身の振り返り、評価し改善へと努力を要するという自己反省である。
2 指導計画は、幼児の発達に応じて、個人別に保育・教育目標を掲げ、それらが達成できるように作成している。	3.0	3.0	down	
3 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の環境構成をしている。	3.1	2.9	up	
4 自分の保育・教育の評価・反省（振り返り）を適切に行い、改善を図っている。	3.2	2.9	up	

12.6 11.9 105.9%

2 保育士としての資質

5 相手に対して正対し挨拶ができる。また、電話の用件は間違いがないようメモに残し、確認や伝達を行っている。	3.5	3.2	up	○社会人としての基本的マナー、守秘義務は十分満たしている。
6 言葉遣いに気をつけ、常に笑顔を中心掛けている。	3.5	3.2	up	
7 子どもの活動に即対応できる服装で保育、教育するように心掛けている。	3.5	3.4	up	
8 規則正しい生活を心掛け、自身の体調管理に努めている。また、体調不良の時は病院を通院し予防接種を受け、感染症対策をしている。	3.6	3.1	up	
9 職務上、知りえた個人情報の守秘義務を果たしている。	3.9	3.9	down	
10 保育教諭という職の信用をなくす行為、発言をしない。	3.8	3.8	down	
11 子どもの事やクラスの出来事等で必要なことは、園長や上司に報告・連絡・相談している。	3.8	3.7	up	

25.6 24.3 105.3%

3 養 護

12 各部屋の適切な採光、温度、音、換気に配慮している。	3.5	3.5	down	○傷病訓練などを通して、養護について特に若い職員への理解が深まるよう園全体で努めていく。
13 登園している子どもに、挨拶しながら視診・触診をして健康状態を確認している。	3.8	3.4	up	
14 保護者から園児の健康状態の申し出を受け、子どもの健康状態、アレルギー、熱性けいれん、脱臼癖、喘息の有無などの既往症について全職員で共有し、その発症時の対応についても話し合いがなされている。	3.6	3.2	up	
15 活動後、休息や水分補給等の対応を適宜行い、休ませる必要のある子への配慮をしている。	3.8	3.6	up	

14.7 13.7 107.3%

4 教育健康・人間関係・環境・言葉・表現

16 衣服の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に、励ます、褒める等の言葉かけをして、着脱への意欲を持たせるようにしている。	3.6	3.4	up	○言葉使いについては、子どもの権利擁護についての、研修や話し合いを定期的に行っている。理解はしているが、評価としては低めである。継続して強化していきたい。
17 トイレでの紙の使い方を具体的に指導し、一人でできるように援助している。	3.4	3.0	up	
18 子どもを褒めたり、励ましたりして自信を持たせ、目標が持てるような言葉かけをしている。	3.5	3.2	up	
19 意欲的に人との関わりを持たせ、ルールを守って活動する心地よさを味わわせる工夫をしている。	3.4	3.1	up	

20	自分の意見を主張したり、相手の意見を取り入れたり譲り合うことを身につけるように指導している。	3.6	3.1	up
21	身近な動植物に親しみ、感謝の気持ちや生命尊重の心、自然への畏敬の念を育てるような配慮をしている。	3.2	2.7	up
22	季節により自然や生活に変化があることを知らせている。	3.4	3.2	up
23	自分を取り巻く身近な事象、事物また、数量・図形・標識・文字に興味・関心を持たせるようにしている。	3.1	2.9	up
24	保育教諭が豊かで美しい言葉を使用し、思いをこめて会話するように心掛け、言葉で伝えあう大切さを知らせている。	2.9	2.8	up
25	豊かな感性と表現力を育てるような絵本や物語を取り入れている。	3.0	2.6	up
26	子どもの伝えたい気持ちを言葉だけでなく、行動や表情からも理解しようと努めている。	3.7	3.1	up
27	子どもが自分の話を十分に聞いてもらった、伝わったという楽しさや満足感が持てるように配慮している。	3.4	3.1	up
28	感情豊かな言葉で保育教諭等の思いを伝え、子ども自身の模倣や発言を促すよう配慮している。	3.2	2.9	up
29	日々の保育の中で感動や発見ができるよう、変化に富む保育・教育内容に配慮している。	2.8	2.6	up
30	行事や体験を通して感動したり、発見したりする場を設定し、その後の表現につながるような配慮をしている。	3.3	2.8	up
31	なぜ? どうして? の疑問に真摯に応え、分かりやすく説明したり、分からなければ一緒に調べたりするよう工夫している。	3.2	2.9	up
32	様々な素材や用具に親しみ、思考力が育つよう創作活動を楽しめるような環境を工夫している。	3.2	2.9	up
33	音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりする機会をつくっている。	3.2	2.8	up
34	行事の中で発表する機会をつくり、成功体験を感じることができたり、自信がついたりするように配慮している。	3.2	2.9	up
35	子どもの個人差を理解し、能力・適正・興味に応じて楽しく取り組めるように配慮している。	3.2	2.9	up

65.5 58.9 111.2%

5 障害児保育

36	職員の連携体制の下に援助を行うことができている。	3.4	3.2	up	○引き続き、会議など職員間での共有や話し合いで、子ども達一人一人の状態に応じた指導をしっかりと行うことができるよう努めていく。
37	気になる子や障害を持つ子の特徴を理解し、適切に発達援助ができる。	2.8	2.7	up	
38	家庭との連携を密にし、保護者との相互理解を図っている。	3.1	2.8	up	
39	親の思いを受け止め、信頼関係と相互理解の下に援助ができる。	3.0	2.8	up	

12.3 11.5 107.0%

6 健康及び安全

40	検温 1日2回（午前・午後）を基本とし、必要に応じて随時行っている。	3.8	3.7	up	○毎日の検温と個々の体調把握に努める意識は高い。 ○安全対策訓練についてはより具体的な方法で訓練を実施していくべきであるとする。
41	午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）を常に観察している。	3.4	3.5	down	
42	子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要な援助ができる。	3.1	2.7	up	
43	非常事態における職員の役割分担が明確に整備されていることを理解している。	3.5	3.3	up	
44	火災・地震・不審者侵入時等において子どもの安全を確保し、避難誘導が適切にできる。	3.6	3.3	up	

17.4 16.5 105.5%

7 アレルギー

45 基本的なアレルギーの種類（食物・接触・薬）や特質について理解している。	3.5	3.1	up	○アレルギー児への配慮を十分に 行い、情報共有し、全職員へ周知 している。
46 アレルゲン除去については、保護者とこども園とで話し合いをし、連絡を密に取り、その対応に相違がないように配慮している。	3.6	3.6	down	
47 除去食を行っている子どもに対しては、他児との差別感を持たせないよう配慮している。	3.6	3.3	up	
		10.7	10.0	107.0%

8 食育

48 体と食物の関係、栄養素について基礎知識を持っている。	3.1	2.9	up	○栽培活動や、教材を利用して、 食べ物への興味や関心を持たせる ことができるように努めている。
49 食事はおいしくいただき、マナーを守って楽しく食べる雰囲気づくりをしている。	3.8	3.2	up	
50 栽培活動やその他の方法を通して、食べ物への興味をもたせている。	3.0	2.4	up	
		9.9	8.5	116.5%

9 虐待

51 子どもの心が健康に育つため、安心感のある環境づくりに努めている。	3.5	3.3	up	○ケース会議・ミーティング等 で、再度マニュアルについても職 員間で共有し話し合いをしてい る。
52 登園時や活動中のあらゆる機会の中で虐待の早期発見に努めている。	3.5	3.1	up	
53 虐待の情報を速やかに園長に報告する体制が整い、全保育教諭で共有している。	3.7	3.5	up	
		10.7	9.9	108.1%

10 地域・家庭支援

54 クラスの子どもの様子・保育・教育の内容などをクラスだより等で知らせている。	3.8	3.5	up	○認定こども園として、地域の子 育て世帯が交流しやすい環境づく りに努め、幅広く周知できる取り 組みを引き続き行っていく。
55 家庭環境、育児環境を把握して、子育て環境へのアドバイスができる。	2.8	2.4	up	
56 保護者からの様々な意見・要望・相談については、真摯に対応し、安易に受けたり、断ったり、無視したりしないで園長や主幹教諭に報告や相談をしている。	3.7	3.5	up	
57 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保幼小連携の大切さを理解している。	3.3	3.2	up	
58 地域や行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れている。	2.2	2.1	up	
		15.8	14.7	107.5%

11 経営・組織

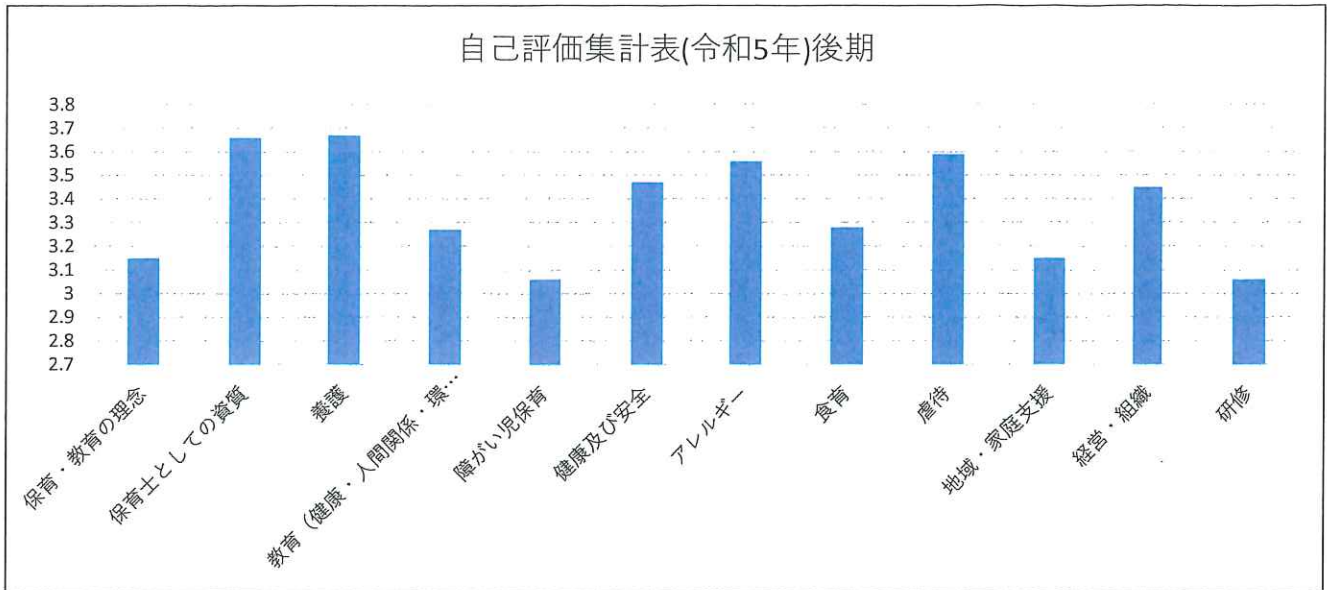
59 職務内容が明確で協同できる体制になっている。	3.5	3.3	up	
60 係や仕事の分担・割り当ては適切である。	3.6	3.6	down	
61 各種会議は適切かつ効果的に進めている。	3.4	3.1	up	
62 職員一人ひとりが組織の中の一員である事や位置づけを自覚し、組織全体の運営に関わっている。	3.5	3.1	up	
63 自分の職務に積極的に取り組み、職務以外の事にも進んで取り組んでいる。	3.0	2.9	up	
64 職員間で連絡体制が確立している。	3.5	3.4	up	
65 職員間で協調性や信頼関係はある。	3.5	3.4	up	
66 上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる。	3.7	3.5	up	
		27.7	26.3	105.3%

12 研 修

67	園外の各種研修会、研究会、講習会等に積極的に希望し、参加している。	3.1	2.9	up	○職務内容に応じた専門性の向上を図っていけるよう、今後も研修機会を充実させていけるようにする。
68	園内研修の成果を日々の保育に活かし、自身の教育保育の充実を図っている。	3.2	2.9	up	
69	園外の各種研修会、研究会、講習会等で学んだことを園内に還元している。	3.0	3.0	down	
70	日頃の教育保育活動の中で常に問題意識を持ち、課題解決の為に積極的に自己研鑽に努めている。	2.9	2.7	up	

12.2 11.5 106.1%

グラフ①



平均点数	223.50
得点率	72.1%

経験年数ごとの分布

経験年数	1～4年	5～9年	10年以上
ポイント	209.375	227	227.6667
得点率	75.4%	81.1%	81.3%

集計結果の総評

各項目について、7割以上達成することができており、職員一人一人が経験や実践を重ねていくことで、保育教諭としての資質向上に繋がり、自信をつけていることが伺える。

障がい児保育については、担当職員だけでなく毎月の会議等で全職員で共通認識を図り話し合いを持ち、状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画に行えるように取り組んでいく。

今年度は、感染症から制限も緩和され、交流や子育て支援事業など、交流の場が作れるようになったが、十分には取り組めず反省もある。